



あかちやいろ ちい と 赤茶色の小さなアリが飛んでくるのは、なぜなの

なつ はね は で 夏になると、羽が生えたアリが出る

アリは、ハチと同じ仲間に入ります。体のしくみもハチとよく似ています。また、ハチと同じように、女王を中心とした巣を作り、巣の中の仕事を、メスのはたらきアリが共同作業で行っています。

アリは、冬の間は、巣あなをとじてじっとしていますが、暖かくなると、出てきて、活動を始めます。春のアリの巣には、羽の生えたアリが、オス、メスとも何びきかいて、はたらきアリに世話をされています。これらのアリは、メスは新しい女王アリになるもの、オスは女王と結婚するアリです。初夏から夏にかけて、この羽の生えたアリの、結婚飛行があちこちで行われます。アリの種類によって、結婚飛行の時期は少しずつがいます。家の中にも飛んでくる羽の生えたアリは、この結婚飛行に飛び立ったアリです。

あたら す つく じょおう たった1びきで、新しい巣を作る女王アリ

天気や気温などのぐあいをみて、巣から羽アリがいっせいに空中に飛び立ちます。そして、オスとメスが相手を見つけて交尾をすると、メスは地面に下りてきます。新しい女王アリが生まれたのです。すぐ、メスは足で羽をもぎ落とし、巣作りの場所を探します。

女王アリは、たった1びきで、簡単な巣を作り、卵を産み、せっせと世話をし、はたらきア리를育てあげます。このはたらきアリが、次の卵や幼虫の世話をし、だんだん巣は大きくなっていきます。(監修・中山 周平)

